

IV 教育相談

1 事業目的

幼児児童生徒の心身の健全な発達を支援するため、市内在住及び市内の幼稚園、こども園、小・中・特別支援・高等学校に在籍する幼児児童生徒及びその保護者、教職員を対象に専門の相談員による教育相談を行う。

2 実施方針

- (1) 相談員の資質向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた適切な相談を実施する。
- (3) 関係機関との連携を図り、効果的な支援体制の構築を図る。
- (4) スクールカウンセラーの資質向上を図る。

3 実施内容

- (1) 相談員の資質向上
 - ・ケースカンファレンスやスーパービジョンをとおして、複雑化する相談内容に対応する相談員の資質の向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた適切な相談を実施する
 - ・相談ケースの受理を丁寧に行い、ケースカンファレンスで様々な角度から検討することで、よりニーズに合った相談の方向性を決定する。
- (3) 相談体制の構築と関係機関との連携
 - ・教育相談とこども発達支援センター（あすばる）との相談体制の構築に努める。
 - ・学校園やこども福祉課、スクールソーシャルワーカー等関係機関との情報交換を行うことで、ケースの実態把握に努め、効果的な支援体制の構築を図る。
- (4) スクールカウンセラーの資質向上
 - ・スクールカウンセラー研修を実施して資質向上を図る。

4 相談体制

(1) 面接相談

① こころの相談

専門の相談員（臨床心理士等）が、子どもに関する様々な悩みや問題について、本人や保護者、教職員を対象にしたカウンセリング、遊戯療法、箱庭療法等をとおして継続的なこころの支援を行う。また、必要に応じて関係機関との情報交換を行う。

② 特別支援教育相談（発達相談）

専門の相談員（特別支援教育士等）が、発達の遅れやアンバランス等により生活や学習上の困難が生じていると思われる子どもについて、学校や家庭での様子の聞き取りや行動観察、発達検査等を実施し、対応の仕方や支援の内容・方法、専門的な支援体制の構築等について助言を行う。

③ ことばの支援教室

専門の相談員（言語聴覚士）が、子どものことばに関する問題の理解や対応について、助言を行う。

④ 医療相談

精神科医が、心身に障がいのある子どもや心理的な原因により不登校やその他の問題行動を起こす子どもについて、助言を行う。

⑤ 医療発達相談

発達を専門とする小児科医が、発達的な問題等により生活や学習上の困難が生じていると思われる子どもについて、助言を行う。

⑥ スクールカウンセラーによる教育相談

市立小・中・高等学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の心の相談や教職員及び保護者に対する助言、援助等に当たる。また、教職員のカウンセリングマインドを高めることにより、問題行動等の未然防止や早期発見・早期解決を図るなど、学校における教育相談体制の充実を図る。

(2) 電話相談

相談員が電話による教育相談を行う。内容によっては、他機関やこころの相談、特別支援教育相談(発達相談)などを紹介する。

(3) 特別支援教育巡回相談

発達に起因する特別な支援を要する幼児児童生徒の在籍する学校園の教職員に対し、当該幼児児童生徒に対する指導内容・方法並びに専門的な指導体制の構築に関して助言を行う。巡回相談は、総合教育センター、伊丹特別支援学校、兵庫県立こやの里特別支援学校の巡回相談担当者および学校生活支援教員（平成 31 年度は笹原小学校、荻野小学校、緑丘小学校、笹原中学校に配置）により実施する。

年間 5 回程度、巡回相談調整会議を開催し、巡回相談担当者間の連携を図り、合理的配慮等についての研修及び検討を行うとともに、学校園における専門的な指導体制の構築を進める。

5 研修

(1) スーパービジョン

相談事例の分析と今後の方向性について、相談員が大学教員等から指導を受ける。ケースカンファレンス(週 1 回)で効率よくケース検討ができるように、討議の内容や進め方について検証し、相談員の資質の向上を図る。

(2) スクールカウンセラー研修

スクールカウンセラーが関わる学校の諸課題について研修・協議し、スクールカウンセラーの専門性を向上させ、児童生徒の問題行動等の課題解決に資する。

6 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① スーパービジョンのケース検討を通してカウンセリングの問題点を明確にし、カウンセリングの方向性について考えていくことで、相談員の専門性を高めることができた。
(3月末現在 5 回 のべ 62 人)
- ② 相談ケースの受理を丁寧に行い、ケースカンファレンス時に様々な角度から検討することで、学校園の教職員や関係機関との情報交換の実施等、子どもへのより適切な支援や望ましい環境作りについて一緒に考えることができた。
(3月末現在 48 回 148 人)
- ③ 教育支援センター「やまびこ」と教育相談の連携を強化し、子どもへのより適切な支援や望ましい環境作りについて情報を共有し取り組むことができた。
- ④ 学校園からの相談依頼が増える状況に対応するために、通常 10 回実施している医療発達相談に加えて臨時の医療発達相談を 11 月と 2 月に実施し、対応した。

(2) 課題と改善策

- ① 不登校や発達上の課題、さらには虐待及び二次障害といった複雑な人間関係や家庭環境及び愛着問題等による情緒不安を主訴とした相談ケースが増えている。十分に検討し、関係機関との連携を行い、適切な相談の実施や効果的な支援体制の構築に努めていく必要がある。
- ② スーパービジョンを通して引き続き相談員の資質向上を図っていくために、研修形態のあり方を工夫していく必要がある。
- ③ 巡回相談実施方法等について検討していく必要がある。
- ④ スクールカウンセラーに複雑化したケースへの対応が求められている。その為、スクールカウンセラーに対し実態に即した研修を行い、学校における教育相談の環境整備にも努める必要がある。また、スクールカウンセラーの枠の中で収まりきれないケースも多いことから、学校園や関係機関と連携を図り、支援体制の構築に努めていく必要がある。

7 実施状況

(1) こころの相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	5	1	6	3	4	8	9	5	5	7	6	1	60
全ケース数(人)	153	134	173	144	120	172	177	179	148	169	176	144	1889
のべ面接回数(回)	232	256	325	299	181	290	327	316	307	241	318	181	3273

○全ケース数(人)の相談内容内訳

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談内容	いじめ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不登校	62	47	65	54	46	70	72	73	56	73	72	56	746
	学業・進路	1	1	2	0	0	2	2	2	0	2	2	0	14
	友人関係	4	5	6	3	4	6	4	5	3	5	7	4	56
	家庭・子育て	31	26	33	29	22	26	28	26	28	28	32	31	340
	心身の健康・保健	33	26	35	30	26	36	36	34	30	34	39	30	389
	発達障害等	9	18	20	17	17	18	19	20	19	6	6	12	181
	非行・不良行為	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	暴力行為	1	3	2	3	2	2	2	3	3	2	0	3	26
	虐待	4	0	5	0	0	8	6	8	4	8	9	0	52
	体罰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校・教職員との関係	0	0	0	0	0	2	2	2	0	2	1	0	9
	その他	8	7	5	8	3	2	6	6	5	9	8	8	75
	合計	153	134	173	144	120	172	177	179	148	169	176	144	1889

(2) 特別支援教育相談(発達相談)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	2	4	4	13	4	0	2	3	1	1	3	4	41
全ケース数(人)	8	14	19	18	30	26	16	19	18	20	6	11	205
のべ面接回数(回)	8	16	19	24	31	28	16	19	18	20	6	11	216

(3) ことばの支援教室

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	2	1	0	5	2	0	2	2	3	1	1	0	19
全ケース数(人)	5	4	12	8	8	12	12	16	8	16	18	6	125
のべ面接回数(回)	5	4	12	8	9	12	14	16	10	16	24	6	136

(4) 医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	/	2	1	8 / 2 (金) に延期	1	2	3	2	3	3	2	3	22
全ケース数(人)	/	2	1		1	2	3	2	3	4	3	4	25
のべ面接人数(人)	/	5	3		3	7	10	5	8	12	10	15	78

(5) 医療発達相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	/	2	3	2	/	3	4	3	3	2	8	5	35
全ケース数(人)	/	4	3	4	/	4	4	7	3	2	9	5	45
のべ面接人数(人)	/	17	11	12	/	16	18	21	11	7	17	13	143

(6) 特別支援教育巡回相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
全 ケース数(人)	0	1	18	7	/	15	17	7	5	3	19	0	92
のべ訪問回数(回)	0	2	20	14	/	22	28	18	15	8	28	0	155
のべ面接人数(人)	0	5	51	33	/	54	67	44	38	24	71	0	387

(7) 情報交換

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
全ケース数(人)	0	3	4	5	1	5	5	8	5	5	2	5	48
のべ面接人数(人)	0	6	7	14	1	10	11	18	15	25	8	33	148

(8) 電話相談

(件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談内容	いじめ	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	不登校	0	4	4	5	0	4	2	2	1	1	2	25
	学業・進路	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	4
	友人関係	0	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	6
	家庭・子育て	3	3	1	0	0	1	0	4	1	2	0	15
	心身の健康・保健	2	0	1	3	0	1	0	0	0	1	0	8
	発達障害等	0	3	0	1	0	0	1	3	3	1	1	13
	非行・不良行為	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	暴力行為	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	体罰	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	学校・教職員との関係	0	1	3	5	0	1	2	1	0	0	0	13
	その他	1	4	1	1	0	3	0	3	0	0	1	14
合計	9	17	12	18	0	11	7	13	6	5	5	0	103

(9) スーパービジョン

月日	講師	講師の所属先	内容	参加人数
1 5月28日	岩宮 恵子	島根大学教授	長期にわたって関わり続けている不登校男児のプレイセラピー過程	11
2 6月18日	伊藤 良子	京都大学名誉教授 帝塚山学院教授	分離不安が強く“固まる”ことで気持ちを表現する男児の母親面接の過程	10
3 8月27日	西田 千寿子	日本レジリエンス教育研修センター理事	愛着障害の理解と支援～学校園と関係機関との連携のあり方～	12
4 9月3日	鳥居 深雪	神戸大学大学院教授	母国語でコミュニケーションの基礎を母親から得られなかったと思われる男児への巡回相談事例	10
5 10月29日	坂本 真佐哉	神戸松蔭女子学院大学教授	不登校を主訴に来所した男子生徒との面接過程	9
6 1月10日	中井 祥博	医療法人古橋会 揖保川病院副院長	自傷行為が続く子どもを持つ母親との面接過程 心因性失声と被虐待の中学生女子のケース	10